DISCOURSE
MARKERS
LANGUAGE TOOLS
COMMUNICATION

【ディスコースマーカーとは？なぜ大学受験英語で覚える必要があるのか】

ディスコースマーカー(disourse markers)とは、英文の中で「話の流れ」や「論理展開」を示す言葉のことです。「but（しかし）」「for example（たとえば）」「therefore（したがって）」などが代表例で、これらがあると「ここで意見が反対方向に変わる」「ここで具体例をあげる」「ここで結論を述べる」といった流れが一瞬でわかります。

大学受験英語では、長文読解が勝負所。限られた時間で、筆者の主張や論理構造を的確につかむ必要があります。ディスコースマーカーを見れば、

- 「どこで意見が変わる？」
- 「どこで具体例が始まる？」
- 「どの文が結論や要約？」
  が簡単にわかり、素早く筋道を立てて本文を理解できます。

つまり、ディスコースマーカーを覚えることは、

1. **読解スピードアップ**：迷わず論理の転換点を把握できる
2. **正答率向上**：筆者の主張や答えの根拠箇所を逃さずつかめる
3. **難関大突破のカギ**：複雑な英文構成でも、地図のように道筋を示してくれる

こうした効果があるからこそ、大学受験英語でディスコースマーカーをしっかり覚えることが、合格への大きな一歩になるのです！！

ディスコースマーカー レベル分けの基準

- **A レベル（共通テスト必須）**：教科書・標準問題集で当たり前。共通テストで得点源にするための基礎中の基礎。
- **B レベル（中堅〜中上位大）**：共通テスト＋α。これらを掴むとやや難度の高い長文で差をつけられる。
- **C レベル（難関大）**：早慶・MARCH 上位・旧帝クラスで頻出の論理パターン。微妙なニュアンスや組み合わせを理解して得点差を広げる。
- **D レベル（超難関大）**：東大・京大・一橋・東工大・ICU などで出会う可能性のある高難度表現や、複合的・文語的マーカー。これらを理解すればトップクラスの読解力が身につく。

【1. 逆接・譲歩・転換（A⇔B)】

論理をひっくり返し、筆者本音が後半に来ることが多い。受験英語で最重要カテゴリー。

A レベル（共通テスト必須）

- **but（しかし）**
- **however（しかしながら）**
- **though / although（～だが）**
- **despite / in spite of（～にもかかわらず）**

B レベル（中堅～中上位大）

- **yet（それでも）**：強調的逆接
- **still（それでも）**：状況が続く逆接
- **of course～, but… / it is true that～, but… / indeed～, but… / certainly～, but…（確かに～だが…）**：譲歩構文バリエーション、スムーズに読めれば中堅～中上位大で有利

C レベル（難関大）

- **nevertheless / nonetheless（それにもかかわらず）**：よりフォーマル・論理的文章で多用
- **even if / even though（たとえ～でも）**：強い譲歩感、複雑な条件反転表現

D レベル（超難関大）

- **notwithstanding（～にもかかわらず）**：文頭・文尾で独特の韻律
- **albeit（～ではあるが）**：高度な文語表現、超難関対策

【2. 対比（A⇔B)】A と B を並列・対照

A レベル（共通テスト必須）

- **while（～する一方で）**：対比基本。注意：while は「同時に起こる」意味でも使うが、対比文脈では「A と B を対比」の意味が強くなる。

B レベル（中堅～中上位大）

- **whereas（～であるのに対して）**：while より明確な対比色が強く、文語的・フォーマル。共通テストでは稀だが、中上位大や難関私大対策で押さえると有利
- **on the other hand（他方で）**：A と B を並べて対比
- **in contrast（対照的に）**：コントラストを明確に示す
- **unlike（～とは違って）**

※while vs whereas の違い：

- **while**：元々「～する間」だが、対比用法では「A と B が同時存在するけれど異なる性質を持つ」イメージ。比較的カジュアルに使われ、教科書レベルでも頻出。
- **whereas**：よりフォーマルで、明確な対比・対照を打ち出す表現。A と B の違いを論理的・学術的な文章で際立たせたいとき用いる。よって共通テストレベルより上位で登場しやすい。

C レベル（難関大）

- **not A but B（A ではなく B） / rather than A, B（A よりむしろ B）**：A を退け、B を重視する転換対比
- **as compared to A（A と比べると）**：比較対象を強調

D レベル（超難関大）

- **on the contrary（それどころか）**：単なる対比でなく、読者の予想を裏切る反転対比。基本的には知名度高いが、超難関大では「on the other hand」との微妙な違いを意識させる問題もあり得る。

【3. 並列・追加（A＋B)】

A レベル（共通テスト必須）

- **and（そして）**
- **also（～もまた）**
- **in addition（加えて）**
- **moreover / furthermore（さらに）**

B レベル（中堅～中上位大）

- **besides（その上）**
- **what is more（さらに）**

C・D レベルは特に上位難度なし。

【4. 原因・理由／結果・結論（A→B)】

A レベル（共通テスト必須）

- **because, since**（～なので）
- **because of, due to**（～のために）
- **so**（だから）**, therefore**（したがって）**, thus**（したがって）**, as a result**（その結果）

B レベル（中堅～中上位大）

- **owing to / on account of**（～のために）：やや硬い
- **now that**（今や～なので）：状況変化踏まえ

C レベル（難関大）

- **consequently / accordingly**（その結果）：論理性強調
- **hence**（それゆえ）：文語的

D レベル（超難関大）

- **thereby**（そうすることで）：分詞構文と組み合わさり、因果関係が複雑になる場合がある

【5. 要点強調・主張提示】

A レベル（共通テスト必須）

- **I think / I believe**（私は～と思う）
- **in my opinion / in my view**（私の考えでは）

B レベル（中堅～中上位大）

- **The point is that～**（要は～だ）
- **The fact is that～**（事実は～だ）

C レベル（難関大）

- **What matters is that～（重要なのは～だ）**
- **It is important (necessary) that～**：強調構造で意見を前面に

D レベル（超難関大）

- **It is not A but B that～**：強調構文＋否定で本質を示す高度な論理展開

【6. 要約・言い換え（A＝B)】

A レベル（共通テスト必須）

- **in short, in brief（要するに）**
- **to sum up, in sum（まとめると）**

B レベル（中堅～中上位大）

- **in other words（言い換えれば）**
- **that is (to say)（つまり）**

C レベル（難関大）

- **namely（すなわち）**：硬めな表現で論理的文章に多い

D レベル特有なし。

【7. 例示・具体化（A⇒例)】

A レベル（共通テスト必須）

- **for example, for instance（たとえば）**
- **such as（～のような）**

B レベル（中堅～中上位大）

- **including（～を含めて）**

C レベル（難関大）

- **take ～ as an example（～を例として考えると）**

D レベル特有なし。

【8. 特殊・高度なパターン】

B～C レベル

- **not only A but also B（A だけでなく B も）**：追加・強調
- **even if（たとえ～でも）**：条件付き譲歩、難関寄り

D レベル（超難関大）

- **not A, on the contrary, B** など複合強調。
- **albeit, notwithstanding, thereby** など文語・特殊表現を正確に捉える必要有。

【実践的トレーニング法】

1. **印をつけて読む（視覚化）**：
   過去問・演習問題でマーカー発見⇒即下線を引く！
   - 初めは全部に線を引いて OK。慣れると「これは重要」「これは補足」と段階的にフィルタリング可能。
   - 最終的には目が自然にマーカーに引っかかるようになり、論理展開が自動的に頭に入る。
2. **マーカー前後を即要約（即時理解）**：
   - but → 「何を否定して、何を主張？」
   - for example → 「どの主張を例で補強？」
   - in short → 「ここまでの文章は何をまとめようとしている？」
     頭の中で 5～10 秒程度で簡潔な要約を入れる習慣を毎回繰り返せば、論理的読解力が急上昇。
3. **シャドーリーディングで定着（音読の活用）**：
   - 声に出して読む際、ディスコースマーカー部分で声の抑揚を変えてみる。
   - 逆接なら少しトーンを変え、まとめ部分でややゆっくり読むなど、「耳」でも論理を感じると記憶に残る。
4. **ライティングで使いこなす（能動的習得）**：

- 自分で英作文する際、「therefore」を使って結論を明示、「rather than」を使って対比強調など、マーカーを意図的に挿入。
- 書きながら「このマーカーはどんな効果を与えるか？」と考え、理解が一層深まる。

5. **段落・文章構造のマッピング（上級応用）**：
   - センテンス単位でなく、段落単位でマーカーを観察。
   - 「導入（意見 A）→対比（while…）→逆接（however…）→結論（in conclusion…）」といった構造を段落ごとに掴むと、長文全体のロジックが明確になり、設問対応が楽になる。

【これで差がつく！超応用アドバイス】

1. **逆接マーカーの連鎖に注意**：
   「but…however…」と連続する場合、最終的な主張はどこ？
   - 難関校はわざと複数マーカーを出し、本当に言いたいことを最後に隠すことがある。慎重に読むよう心がけよう。
2. **微妙なニュアンスを習得**：
   - 「on the contrary」は単に反対ではなく「予想を裏切る逆方向」
   - 「whereas」は「while」よりフォーマルで明確な対照
   - 「not A but B」では B が主役になることを即察知 こうした微妙な違いが難関・超難関大で命運を分ける。
3. **段落冒頭マーカーを見逃すな**：
   - 「However,」が段落冒頭なら、前段落の流れを反転し、新しい展開や筆者の本音を提示している可能性大。
   - パラグラフ全体のトーンを読めれば、設問の意図にも気づきやすい。
4. **実際の過去問で検証**：
   - 志望校の過去問を解くときに、マーカーを印づけして論理展開を追う練習を繰り返せば、本番で迷わない。
   - 慣れたら時間短縮と精度アップが実現し、合格点ラインに直結する。

「超絶大学受験英語ディスコースマーカー・ガイド」は、共通テストから超難関大までフルカバーし、各表現のレベル目安・使い方・ニュアンス違い・効率的な学習方法・超応用アドバイスまで徹底的に網羅しました。

- 基本（A）→中級（B）→難関（C）→超難関（D）と段階的に習熟することで、どんな長文にも対応可能に。

- 「while」と「whereas」の違い、微妙な逆接表現や強調構文、文脈に応じた読み分けなど、細かな点まで押さえれば、他の受験生が理解しきれない箇所でも差をつけられます。

このガイドを参考に、ディスコースマーカーを「読みの地図」として活用し、英語長文読解で圧倒的なアドバンテージを手に入れてください！！

練習問題編はこちら！